

保健所へ行こう!!

HIV感染 輸血で!!

輸血でHIVに感染した ニュース...

献血すると 調べてもらえるのかな?

調べるけど、採血者には 伝えないことになってるよ!

ほかに 調べてもらえないの?

保健所では 匿名・無料で 調べてもらえよ

名前 匿名 無料

保健所

保健所で 調べよう!!

HIV とエイズ  
HIVとは...ウイルスの名前  
エイズとは...HIVが原因で発症した病名

# あからさまな差別が 差別事件報告集会

## マスコミの実態、明るみに

差別事件報告集会を12月2日、プラホープでひらき、各界各層より265人が参加した。

## 土地差別調査が明るみに

藤本哲史・県連書記長からの基調提案のなかで、和歌山県でY住宅販売会社による土地差別事件が発覚した。社内用の「競売仕入れチェック表」(以下、「チェック表」)に「同和地区」「同和地区により需要は極端に少なくなると思われます」と特記し、間違つて伊都振興局に送付された。2回の確認会で明らかになった事実、社員Aが過去に同和地区の案件を取り扱い、販売に苦勞した体験から同和地区は入札しにくい物件として差別記載したことが語られた。Y社は全国に支店を展開していることもあり、今後、中央本部での確認会・糾弾会を実施する。



田上武・部落解放・人権行政確立 要求和歌山県実行委員会会長

「週刊朝日」差別について講演する 松岡徹・中央本部書記長

さらに、戸籍謄抄本の「不正取得事件」では、和歌山で20件(群馬ルートでは60数件)が不正取得され、行政では本人通知制度の導入がすすめられてきたが、登録されていない現状がある。自身の情報を守るために、本人通知制度に登録し

てほしいと基調提案がなされた。つづいて、松岡徹・中央本部書記長から「週刊朝日」部落差別記事事件のとりくみと今後の課題」と題して一連の経過が報告された。

「週刊朝日」に書かれた橋下徹・大阪市長に関する記事は、橋下家のルーツを暴露し、被差別部落出身の父親を引き合いに出し「DNA」「血脈」があたかも橋下市長の「非寛容で厄介な性格」の根源であるかのような表現で記し、悪意に満ちた記事であった。

松岡書記長は、利益主義の側面があり、差別問題への認識不足が会社を覆っていたが、9月の糾弾会で筆者の佐野真一さんから「差別の現実を知り言葉を失った。自分の行為は万死に値する。猛省し、部落問題に寄り添う作品を書きたい」という決意がのべられたことは、解放の側にとっては活動していくことにつながる。これからは、部落問題に思いが馳せられなかったのはなぜか、部落差別が現在もどう生きているか、差別記事がどんな影響を与えているのかを知り、会社としてどう部落差別に向き合うのか、どこに間違いがあったかを明らかにし、同じ過ちは繰り返さないようにしてほしいと締めくくった。

## 連載 (2) 「改憲と人権」

先の号で「憲法」の意味や「基本」、つまり「人権の普遍性」について書いたが、今回「自民党・憲法改正案」にみる「改憲案」の基本について考えてみる。

○主体は、私たち国民ではなく「国家」に!

「憲法」改正の主張の一番は「現在の憲法は、占領軍(アメリカ)に押し付けられた」だから「自主憲法の制定」ということだろう。

改正案をみると「人権規定も我が国の歴史、文化、伝統をふまえたものであることも必要だと考えます」としている。つまり「人権」は西欧のモノで日本には日本の価値観があるということ、「こうしたことは「あらためる必要がある」として「人権の普遍性」を否定している。

そして、その短い前文を見ると「国、国家」が強調され「国と郷土を誇りと気概を持って自ら守り」「国を成長させる」「良き伝統と我々の国家を末永く子孫に継承する」として、それを達成するのが「国民の義務」とされている。さらに、国家観も「長い歴史と固有の文化を持ち、国民統合の象徴である天皇を戴く国」と決めている。

また「和を尊び」と聖徳太子が定めたといわれる「十七条の憲法」の一文まで登場するのである。一口に言えば「時代錯誤」であり「古き時代(大日本帝国)へのノスタルジー」であるとしか言いがたい。

しかし「ノスタルジー」と放置できない現実感をもたぬ恐怖を感じる。アジア諸国との関係や領土問題を背景に「秘密保護法」や「日本版NSC」が具体化してきているなど、準備が着々とすすめられている。

さて、話を戻すが「基本的人権」を「西欧のモノ」としているが、日本も含め人類の長い歴史のなかで、戦争などさまざまな困難な状況や多くの人びとの努力の末に到達した価値観であり「人類の英知」が「人権の普遍性」である。

自民党案は「日本固有の歴史や文化、伝統」を強調しているが、極めて稚拙な主張であるといえる。例えば、日本の衣・食も、もとはといえば古代に渡来人がもち込んだもので、伝統文化の多くもその類である。さらに、江戸時代も朝鮮王朝の文化の影響を受け、明治にはそれまでの日本文化を捨て、西欧文明に飛びついていったのが歴史の事実である。

私たちの国は、それぞれの時代に、外国からの異文化や科学・知恵を巧みに取り入れ発展させ現代の文化や生活を創り上げてきた。自民党の主張は、それらを全否定する主張なのだろうか。しかし、本音はそうではない。「人権の普遍性」が改憲論者にとって都合が悪く、改憲論者から、理屈に合わなくても無理にとおそうとしているのであろう。

「憲法」改正論の最大の課題は、主体が「国民」ではなく「国家・国家権力」だということである。つまり「私たち国民は国家の発展のために存在する」ということが、自民党案の基本的な性格である。

そのために、国家の「利益」「秩序」の範囲内に、国民の「基本的人権」をおきたいというのが本音であり、狙いであろう。(次回は、具体的な内容について考えてみる)